

先輩メッセージ

Q1 だから、愛教を選んだ！

Q2 こんな受験対策をした！

A1 複数の免許が取得できることに魅力

幼稚園教諭一種免許状、保育士だけでなく、小学校教諭や特別支援学校教諭の免許状も取得できることに魅力を感じて進学を決めました。同じ保育士を目指す成長意欲の高い仲間と学べる環境、1年次から保育の現場を多く経験できること、実践的な講義が受けられること。この3点が本学を選んで特に良かったポイントです。

A2 ニュースや書籍で知識を深めました

「総合型選抜」での受験対策としては、面接の練習のほか、幼児教育に関するニュースを調べたり、教育や保育に関わる本を読んだりして、考えを深めました。高校1年のころから本学を受験したいと考えていたので、音楽の先生に、幼児教育の前期試験科目にある歌の指導をお願いするなどして、準備を進めました。



学校教員養成課程 幼児教育専攻2年 愛知県立豊田北高等学校出身

先輩たちは何を学びたくて、どのような考えで愛知教育大学を選んだのでしょうか？

ここでは各専攻、コースの学生が志望大学を愛知教育大学に決めるまでの葛藤を語りました。また入学後に感じたことや、これから学びたいことについても話してもらいました。

A1 プロフェッショナルな教員を目指すため

教育に携わる上で重要な広い視野や資質を備えたプロフェッショナルな教員になりたいという思いがありました。愛教大を選んだのは、教員養成のためのカリキュラムや設備が充実していたから。附属高校で探究活動のお手伝いをするプログラムなど、教員になった際に役立つスキルが身に付く機会が多く、満足しています。

A2 教員になった時のビジョンを明確に

私が受験した後期日程では、理科4分野それぞれが記述式の問題として出題されました。求められているのは、小手先のテクニックではなく、全範囲にわたる正確な知識。単に暗記するだけでなく、各現象を論理的にとらえられるよう勉強しました。面接に向けては、教員になった時の自身のビジョンを明確にして臨みました。



学校教員養成課程 高等学校教育専攻理科専修3年 学校法人名古屋学院名古屋高等学校出身

A1 自分の興味に合う専修に出会えたから

将来、教員になりたいと思っていた私にとって、愛知教育大学は選択肢の一つでした。大学についていろいろ調べるうちに、本学の日本語支援専修の存在を知り、自分の興味ややりたいことに合っていると感じました。このほか、自分の能力や通学のしやすさなど、総合的に判断し、最終的に本学への進学を決めました。

A2 繰り返し練習、そしてあきらめない！

過去問・小論文・面接、それぞれ何度も繰り返し練習。また、事前に日本語支援に関する基礎的な内容を自分で調べた上で、試験に臨みました。前期試験は不合格となってしまいましたが、最後まであがこうと、後期試験を受験して無事に合格。やるやらないは人それぞれですが、最後まで頑張って良かったと思います。



学校教員養成課程 義務教育専攻日本語支援専修3年 愛知県立岡崎北高等学校出身

A1 障害について幅広く学べる環境

進路に悩んでいた高校2年の時に、担任の先生から本学の特別支援教育専攻を勧められました。障害を持つ子どもの中には、重複障害の子もいます。愛教大では、障害について幅広い領域を学ぶことができるため、より適切で柔軟な支援方法や実践するための知識を身に付けられると考えました。

A2 あきらめずに続けることが重要

大学入学共通テストに向けて毎日勉強し、面接の練習も繰り返して行いました。前期で不合格となってもあきらめず、試験に向けて準備を続けたことが合格の要因だと考えています。愛教大は、ボランティア活動をはじめ、さまざまな学びの機会が多くあり、入学して良かったと実感しています。



学校教員養成課程 特別支援教育専攻2年 愛知県立安城南高等学校出身

A1 教員になるための設備や支援が充実

オープンキャンパスに参加して感じたのは、愛教大が教員になるための設備や支援、カリキュラムが非常に充実していること。また、国立大学で学費が安く、二次試験は自分の得意な教科で受験できる点や、実家から近く、教員採用試験の合格者数が多いことなど、そのメリットの多さから受験を決めました。

A2 傾向を調べ、自信が持てるまで準備！

大学入学共通テストの配点が高かったため、共通テストの対策を中心にしました。二次試験は日本史の記述が中心で、初めのうちは時間内に書けず苦戦していましたが、何度も練習し自信が持てるようになりました。合格するためには、あきらめずに本番までにしっかりと準備をすることが大切だと感じています。



学校教員養成課程 義務教育専攻社会専修2年 愛知県立名古屋南高等学校出身

A1 充実した実習で、専門性を磨けます

「養護教諭になりたい」と思ったのは高校1年のとき。充実した講義や実習を通して養護教諭としての専門性を身に付けられるカリキュラムに引かれ、本学を選びました。実際、子どもたちと関わる機会が多く、学校体験活動などを通じて、自分に足りない知識や技能も認識。今後、学びを深めながら、専門性を磨いていきたいです。

A2 ニュースや書籍で情報収集

二次試験に向けては、保健の教科書を読み込み、内容を徹底的に理解。小論文や面接対策としては、ニュースを見たり本を読んだりして、教育の現状や課題を調べました。受験は大変ですが「養護教諭になりたい」という気持ちを強く持つことで、乗り越えられると思います。まわりの家族や先生、友人の応援も支えになりました。



学校教員養成課程 養護教育専攻3年 三重県立松阪高等学校出身

Q1 だから、愛教を選んだ！

Q2 こんな受験対策をした！

A1 心理学+教育現場の今を学べる環境

高校1年のころ、スクールカウンセラーを目指している私に、担任の先生が勧めてくださったのが本学の心理コースでした。教職を目指す人たちの近くで心理学を学べる環境や、公認心理師などの資格取得に向けて大学院へ進学できる点、他のコース科目にも触れながら教育現場の幅広い知識が得られる点に魅力を感じました。

A2 自分の得意と苦手を把握して対策

推薦入試に重点を置いていたので、注力したのは大学入学共通テスト対策です。得意教科でいかに得点し、苦手教科でいかに点数を落とさないかを重視。間違えた問題や自力で解けなかった問題をノートにまとめたり、特に国語と英語は過去問の出題傾向を分析したりしながら、多くの問題に触れるようにしました。



教育支援専門職養成課程 心理コース2年 愛知県立岡崎高等学校出身

A1 専門分野に特化した教育課程に興味

興味があったスクールソーシャルワーカーに必要な社会福祉士の資格が取得でき、専門的に学べる教育課程が設置されていたことが本学を選んだ理由です。学校体験活動では、教育現場の現状、学校文化を学ぶことができ、将来スクールソーシャルワーカーとしてどうすればいいのか、実践に基づいて考えることができました。

A2 国語の先生に小論文の添削を依頼

小論文は決まった答えがなく、他者が読んで納得できる文章を書くのが難しいと思います。そのため、本学の過去問を解き、国語の先生に何度も添削をお願いし、広い視野で自分の考えを書けるよう練習して臨みました。本番は時間がなくて焦ることがあるかもしれませんが、落ち着いて頑張ってください！



教育支援専門職養成課程 福祉コース3年 徳島県立城東高等学校出身

A1 教育現場を整えるための知識が学べる

元々教員に興味がありましたが、教育現場の現状・課題を知る中で、教員の負担を軽減し、子ども一人ひとりと向き合える環境を整備したいと考えるようになりました。そんな時に知ったのが、教育ガバナンスコース。学校づくりや教育の仕組みを学び、行政・法律などの専門性、実践力を身に付けられるカリキュラムに引かれました。

A2 推薦から一般入試まで細かに対策

学校推薦型選抜、その後は一般入試前期・後期も本学に出願すると決めていたため、志望理由書などの書類作成から、面接、大学入学共通テスト、小論文対策まで、幅広く準備をしました。志望理由書の作成で重視したのは、情報収集と自己分析。面接に向けては、自分の思いを最大限伝えられるよう、繰り返し練習を行いました。



教育支援専門職養成課程 教育ガバナンスコース3年 三重県立神戸高等学校出身